

えのきしんでんいせき 9 榎新田遺跡

所在地：勝山市元町3丁目507-4

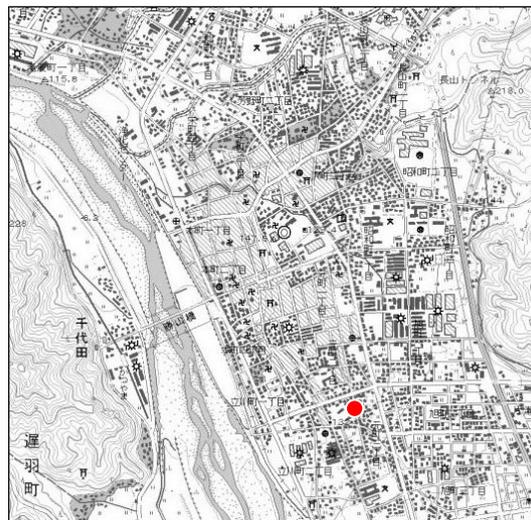
調査原因：家屋の新築

調査期間：令和4年12月～同5年1月

調査主体：勝山市

調査面積：408.6 m²

時代：江戸時代



位置図 (S=1/50,000)

遺跡について 令和4年度の榎新田遺跡の発掘は2回目で、これまでの調査を含めると4回目となります。調査地は当遺跡範囲の縁辺部にあたります。近隣には個人住宅が建ち並び、もともとは工場が建設されていた場所でした。調査の結果、榎新田遺跡の特徴である奈良・平安時代は少なく、今まで未確認であった江戸時代のくらしの様子が見つかりました。

主な遺構 ^{どこう}土坑や小穴が多数を占めるなか、建物跡を復元できる小穴があり、1棟の掘建柱建物が見つかりました。建物跡は、3間×2間で主軸は南北方向に走ります。規模は桁行4.0m、梁行2.7mを測り、柱穴の大きさは径0.2m前後です。建物の規模やこの付近の遺物包含層^{ほうがんそう}から江戸時代の土器が出土したことから、江戸時代のものと考えられます。また、調査地の中央付近には南北方向に川石を多量に含む礫層^{れき}が見つかり、北西角付近にこれと一連になるものか、落ち込む肩部を見つけました。おそらく、河川が流れていた痕跡と考えますが時期の特定には至りませんでした。

主な遺物 出土量はコンテナ箱数でいうと1箱です。奈良・平安時代の土師器^{はしき}と須恵器^{すえき}が各小片1点ずつ見つかった以外は、江戸時代の肥前陶器^{ひぜん}3点、かわらけ1点、越前焼2点でした。遺構からは出土せず、遺物包含層からこれらは見つかりました。土器の出土量が大変少ない状況であったことは、おそらく古代から現在に至るまで断続的に土地利用があり、とくに近代になって織物工場の建設が行われるなかで全体的に削平の影響が著しかったからと推定されます。 (藤本康司)

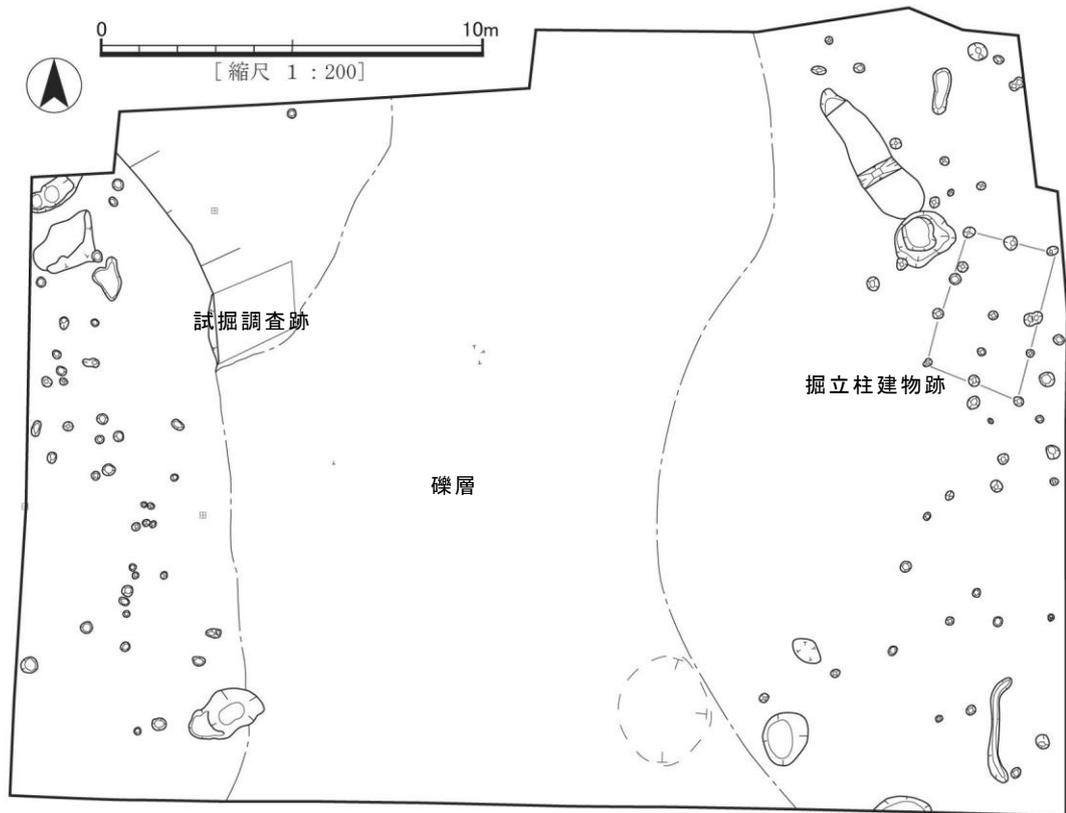


図1 調査地平面図



写真1 掘立柱建物跡 全景(西から)



写真2 落ち込み肩部(南から)



写真3 礫層の検出状況(南から)